



# British Politics Today

2012年8月1日  
第1巻 第7号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk  
tomo@kikugawa.co.uk

## この号の内容

- 1 はじめに
- 2 政治家とオリンピックチケット
- 3 日本人はセキュリティ音痴?
- 4 英国の上院改革は困難
- 5 英国新旧政治家列伝
- 6 英国から見た日本

---

オリンピック担当の下院  
委員会でもチケットの公  
的な割り当てはない

---

---

政治家は「公僕」で  
国のセールスマン

---

## 1. はじめに

ロンドンオリンピックが始まりました。開会式は、英国の歴史や現代社会を描き、硬軟併せた、素晴らしいものでした。7500 人のボランティアもよくトレーニングされており、監督の優れたリーダーシップの下、多くの力が結集されていました。2020 年のオリンピックに、東京が最有力候補都市となっています。選ばれても、ロンドン同様、セキュリティ確保や費用の面など多くの問題があるように思われます。

## 2.政治家とオリンピックチケット

日本では、政治家はオリンピックチケットを比較的簡単に入手できると考える人がかなりいるようで、それは英国でも同じだろうと見る人がいるようです。しかし、英国では状況がかなり異なります。チケットを入手できなかった人が非常に多く、同じように応募した英国の政治家もチケットを入手し損なった人がかなりいると報道されました。

オリンピックを担当する下院の委員会がチケット問題で大きな話題になりました。11 人の委員に、オリンピックの大手スポンサーの電話会社の BT が、今大会で最も人気のある男子 100 メートル決勝のチケットを提供したいと申し出て、このうち、4 人が 420 ポンド(5 万円)のチケットを受けたことがわかりました。これを聞いて、公職倫理委員会の元委員長が、「驚き、あきれ」と評しました。それ以外の委員は、断ったようです。

この問題であきらかになったのは、オリンピックを担当する委員会の委員でも、オリンピックのメイン会場で行われる競技を見るためのチケットを簡単に入手できないことです。オリンピックチケットは、政治的に非常にセンシティブな問題です。もし、政治家がその地位を利用して入手したり、もしくはスポンサーからチケットを入手したりしようものなら、マスコミがそれに飛びつき報道するからです。

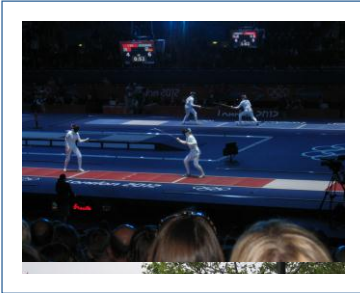
政府は、閣僚ら政府内の職に就いている政治家に対して、原則として、スポンサーなどからオリンピックに招かれることなどを禁止しました。例外的に、首相府の許可を受けた場合のみ許されることになっています。

キャメロン首相らは、政治家が特別な待遇を受けていると見られることを警戒しています。そのため、ロンドンに設けられた、オリンピック関係者用の特別レーンを利用できる閣僚は、ごく一部の、護衛のつくトップ級の閣僚やオリンピック担当の大臣らに限られており、それ以外は公共交通機関を利用するよう指示しました。政府は、約 75 万ポンド支払い、計 8815 枚のチケットを購入したと言われますが、これらのチケットは、基本的にビジネス目的であり、VIP やビジネスマンの政府の接待に使われています。この VIP らの対応に 60 人の大臣や有力議員を動員しているそうですが、こういう人々にも公共交通機関を使うよう指示していることから反発もあるようです。

政府のチケットを渡される政治家たちは英国のセールスマンとして働くことが要求されています。政府のマスコミ対策という見方もあるでしょうが、政治家に特権があるのではなく、むしろ「公僕」として働くことが期待されているからだと思われます。

### 3.日本人はセキュリティ音痴？

ロンドンオリンピックが開催されていますが、ロンドンでのセキュリティがどのようなものか、なかなか理解できない日本人がいるようです。ロンドンに来ればチケットが手に入るだろうと簡単に考えてロンドンに来た日本人や外国人がかなりいます。



オリンピックフェンシング

英国では、セキュリティ対策のために、入場券の入手は極めて厳しくなっています。基本的に各国のオリンピック委員会やその公認の業者経由で購入するか、英国やEU加盟国など指定された国在住でなければロンドンオリンピック委員会のウェブサイトで購入できません。それ以外の経路では買えないことになっています。しかも Visa 系のカードが必要で、カードの登録住所と購入者の住所が一致する必要があります。大会中は、インターネットで購入した後、チケットはボックスオフィスと呼ばれる所で受領することになりますが、申し込んだ本人が、購入した際に使ったカードと写真付きの身分証明書を持参する必要があります。切符は会場入り口でスキャンされ、また、会場入り口には空港並みのセキュリティチェックがあり、100ml 以上の液体も持ち込めません。厳格なチケットの販売やセキュリティチェックは、テロリストが会場に入るのをなるべく防ぐための手段です。

オリンピック開催中のセキュリティは非常に大きな課題です。英国は、米国の盟友として、過激派イスラム教徒らのテロリストの標的で、世界が注目しているロンドンオリンピックは、このようなテロリストのプロパガンダの場として使われる可能性が高いと見られています。

安全を確保するために、メイン会場の周辺では、アパートの屋上などに地对空ミサイルが設置され、不審な航空機を撃墜する準備ができています。ユーロファイター・タイフーンと呼ばれる空軍の戦闘機はスタンバイです。テムズ川でも何度も事前のセキュリティ演習が繰り広げられました。

各競技会場の周辺には、普段はあまり見られない武装警官がかなりおり、自動車での突入を防ぐために通常は国会周辺にある非常に大きなおもりのような防護壁が各所に置かれています。ロンドンのセキュリティを心配した米国の FBI らのエージェントが千人ほどロンドンに来ているとも言われています。

ある大手ホテルのマネージャーがタイムズ紙に投稿し、メイン会場周辺のアパートの屋上にミサイルを設置する報道がなされてから、客足が止まったと指摘しました。日本のような比較的安全な所に住んでいると、このようなセキュリティ対策を経験することがほとんどないために、なかなか想像力が働かないようです。日本人は、恵まれているがゆえに、セキュリティ音痴と言えるのではないかと思います。

### 4. 英国の上院改革は困難

英国の上院は、功績で任命された一代貴族と一部の世襲貴族、英国国教会の司教らで構成されており、選挙で選ばれていません。上院議員の大部分を公選で選ぶ制度に変更しようと連立政権の中の自民党が積極的に推進しています。しかし、保守党の中にも反対がかなり多く、特に上院では自民党にも反対の声があります。7月前半の国会審議でこの改革は極めて困難であることがはっきりしました。

理論的には正しく思われ、しかも主要三党はいずれも 2010 年総選挙時のマニフェストで上院改革を謳いました。しかし、「憲法問題」である上院改革をやり遂げるには国民の関心が乏しすぎるように思われます。

オリンピック開催中のセキュリティは極めて厳しい

## 5. 英国新旧政治家列伝

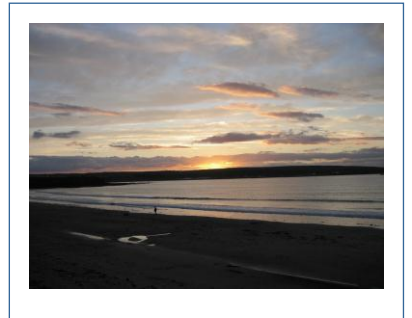
ジョージ・オズボーン(1971年5月23日生まれ)

キャメロン政権の財相。高級壁紙などを扱う会社を経営し、代々バロネット(准男爵位)を持つ家庭に生まれた。オックスフォード大学で学んだ後、保守党調査研究部に入り、政治部門の責任者となる。メージャー保守党政権下でスペシャルアドバイザーとなり、1997年総選挙で保守党が敗れた後は、新党首ウィリアム・ヘイグの下でスピーチライターなどを勤める。その後2001年に保守党の非常に強い選挙区から立候補し、下院議員に当選。保守党党首マイケル・ハワードに目をかけられ、2005年総選挙後、2回目の当選をしたばかりの33歳で影の財相に任命される。

キャメロン首相とは、ロンドンの中西部で近所に住んでいたことから、ノッティングヒル・セットと呼ばれるグループのメンバーとして親しい。ハワードは党首の後継者としてオズボーンを望んだと言われるが、オズボーンは勝ち目のないと思われた党首選に立候補せず、出馬を決心したキャメロンの選挙事務長となった。それ以来キャメロンのストラテジストとして働いてきた。

2010年の総選挙では、3党首テレビ討論の前に行われた3党財務担当者討論で、労働党のダーリング財相、自民党のケーブルと比べると自信のなさが目立ち、弱く見えた。あのブラウン前首相がそれまでの3年間財政を任せていたダーリングと、経済学の博士号を持ち、ロイヤルダッチシェルで首席エコノミストであったケーブルと比べると見劣りするのはいやむを得ないと言えるが。キャメロン政権の財相就任以来、大幅な財政カットを打ち出し、政府の財政計画は一つしかないと主張してきたが、今や、IMFもその変更を求める状態となっている。(次ページに続く)

スコットランド・サーソーの日暮れ



### 雑記

7月下旬、スコットランドにウォーキングに出かけました。英国の本島であるグレートブリテン島を縦断して歩く「ランズエンドからジョンオグロウツ」ウォークルートの一部です。これは、西南のコーンウォールから北のスコットランドの端までのルートですが、妻がこれを反対のスコットランドのジョンオグロウツから歩く計画を立てました。このルートは、自動車では874マイル(1407キロ)ですが、歩くときかなり回り道をするため、約1200マイル(1900キロ余り)とされています。

一度に歩くと2~3か月かかります。これを少しずつ分けて歩いて行こうという計画です。私たちの取ったルートは、ジョンオグロウツからサーソーそしてメルヴィッチを経由してヘルムズデールに至る130キロ程度のものです。ヘルムズデールで泊まった宿では、かつて日本人一行が冬にもかかわらず、朝、アイスクリームを注文した話を聞きました。

途中の景色は素晴らしいものです。日中の時間が最も長い夏至が過ぎて1か月以上たっていましたが、午後10時を過ぎても外は明るく、港町のサーソーでは、素晴らしい日没を見ました。風力発電の風車がありましたが、それにふさわしく、非常に風の強い地域です。耳のあたりを風が渦巻き、その音がビュービューと聞こえます。水を飲もうとウォーターボットのキャップを外すと、風がボトルに入って音楽を奏でました。メルヴィッチからは内陸部を歩きますが、流れる川ではサーモンが飛び跳ねています。途中のフォーシナードには、英国鳥類保護協会の管理する自然保護区があり、バードウォッチングの人たちにとっては、宝庫と言えます。

インバネスまで帰ってきて、植生がかなり違っているのに気付きました。足の裏のまめに苦しむというハプニングもありましたが、自然を満喫しました。



## 5. 英国新旧政治家列伝

(前ページから続く)

今年 3 月の予算では、自信満々で発表したが、その後、多くのUターンをした。また、バークレーズ銀行のLIBOR 銀行間レート問題でも労働党のボーズ影の財相が、労働党政権時代に関係していたと名指しで示唆したが、その事実はなかった様子で、保守党内部からも謝罪を求める声も上がったほどである。

また、野党時代にキャメロンの広報担当を勤め、キャメロン首相と一緒に官邸入りしたが、電話盗聴問題で広報局長を辞職、その後逮捕・起訴された元ニュース・オブ・ザ・ワールドの編集長アンディ・クールソンをキャメロンに勧めたのはオズボーンだったとされる。確かに、この人事では、クールソン本人の能力、そしてメディア王マードック氏との関係を強める意味で大きなメリットがあると判断したと思われるが、結局このためにキャメロン首相は大きく傷ついた。

オズボーンの基本的な問題は、頭は好い人物なのだろうが、英語で 'too clever by half' という言葉にあるように、中途半端に頭がいい点だろう。政治の場で成功するには、危険を察知して未然にその対策を打つ一種の勘が必要だが、オズボーンにはそれが欠けているようだ。つまり、それぞれの政策、方策のメリットを見て、それらに基づく戦略を構築できる人物ではあるが、それぞれのデメリットを十分に計算に入れられない人物と言えよう。

本来、こういう人はチーフストラテジストとして働くべきではないと思われる。問題は、キャメロン首相の人を切らない傾向だ。これにはプラス面もあるが、オズボーンに関することでは大きなマイナスになっていると言える。保守党の下院議員の中に、オズボーンをヘイグ外相と入れ替えるべきだと主張する人が増えているが、キャメロン首相は、オズボーン財相を替えるつもりはない。



ロンドンの聖火トーチリレー

## 6. 英国で報道された日本

- ① **国会の福島原発事故調査委員会の報告**  
2011 年 3 月に発生した事故は、防げる事故であり、政府と原子力産業界との癒着、難しい質問をしたがらない国民性のために起きたと結論。そして電力業界の立て直しを求めた。
- ② **小沢一郎氏**  
「破壊屋」とか「影の将軍」と呼ばれる小沢一郎氏が民主党を離党して新しい政党を設立。しかし、国民の期待は乏しいようだ。
- ③ **電通の会社買収**  
日本の電通が、英国の大手広告会社イージスグループを買収。
- ④ **洪水**  
九州など日本の南部の洪水のため 26 人以上の死亡者が出、25 万人が避難した。
- ⑤ **日本サッカー女子チーム**  
日本の女子サッカーチームは金メダル候補の 1 つ。メダル候補とはみなされていない男子チームが飛行機のビジネスクラスであったのに対し、女子はプレミアムエコノミーであったことに不満が出ている。
- ⑥ **列車の契約**  
英国が日本の日立と 45 億ポンド(5500 億円)のハイスピード列車の契約。
- ⑦ **インサイダー取引**  
野村ホールディングの社長がインサイダー取引スキャンダルで辞任。
- ⑧ **女性の平均余命**  
日本人女性は過去 25 年間、世界最長であったが、香港女性が追い抜いた。
- ⑨ **ファックス**  
日本では今でも手書きが重んじられており、英国ではあまり使われなくなってきたファックス機がかなり利用されている。

菊川智文  
英国政治アナリスト  
京都大学法学部、松下政経塾卒  
英国スターリング大学 PhD  
著書「英国政治はおもしろい」 (PHP)

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk